

教員の働き方改革にちょっと思う

白井邦彦（教育・昭和55年卒）

「過労死ラインを超える残業時間」「休憩時間もほとんどない」「部活動や授業準備に追われる」「小学校の英語教育やプログラミング教育等やることは増える一方」「教員が足りない」・・・現在の学校現場を表した言葉です。業務増で疲弊し、心身を壊す教職員も少なくありません。そんな環境を少しでも改善しようと様々な取り組みがなされています。それが教員の働き方改革です。

確かに、教員が心身共に健康でないと、こどもたちにとって良い教育が展開できるはずがありません。業務削減や業務改善による働き方改革が少しでも進むように願っています。しかし、一方でなくしてほしくない、大切にしてほしいこともあります。

私が教頭として赴任したある小学校のPTA会長をしていた〇〇さんから思いもよらない言葉をかけられたことがありました。「白井教頭先生って、昔、附属坂出小学校で教育実習をされませんでしたか？」「ぼく、先生に教えてもらいました。あの時、4年〇組だった〇〇です。」「えー？ほんまに？」遠い記憶を思い返してみれば学生の頃、確かに附属坂出小学校で教育実習をしました。4年〇組でした。21歳の頃の出来事ですから、30年も昔の話です。

附属坂出小学校には毎年何人もの教育実習生がやってきます。あの時も4年〇組には4人の実習生がお世話になっていたと記憶しています。こども達は、6年間で大勢の実習生と関わることになります。しかも、はるか昔の話です。「よう覚えとるなあ！なんでそんな昔の事を覚えとるん？」と思わず聞きました。すると意外な答えが返ってきました。「あの時は、実習の先生たちがめっちゃ遊んでくれたんですよ。特にドッジボールをしたことをよく覚えています。白井先生は当てるのが上手で、まっすぐ前にボールを投げるような様子をして、全然違う方向にコントロール良く投げってくるから、僕たちはよく当てられたものでした。」「確かにそうやったなあ。汗をかきかき下手くそな授業も頑張ったんやけど、そんな事より、ドッジボールで遊んだことを覚えていてくれたんや。」なんだか嬉しくなりました。

業務改善の一つなのでしょうか、近頃は昼休みに運動場に出てきて子どもたちと汗をいっぱいかいて遊んでいる教員の姿を見ることも少なくなったように思います。確かに様々な業務に忙殺されて大変なことは理解できますが、やっぱり子どもたちにとって先生と一緒に遊んでくれたことはいつまで経っても思い出の一つとして心に残っているんだなあと強く感じた出来事でした。働き方改革は絶対に必要なことであるとは思いますが、その中身についてはよく考えてしっかり吟味しなければならないのかなとちょっと思いました。